

# 農林漁業の6次産業化について

平成31年1月

関東農政局栃木支局

---

# 1 6次産業化とは

「一次産業としての農林漁業と、二次産業としての製造業、三次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取組」

（「地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律」（六次産業化・地産地消費）の前文より）

（法律の公布日：平成22年12月3日、施行日：地産地消関係は平成22年12月3日、6次産業化関係は平成23年3月1日）

## 【参考】

6次産業化とは、農業を1次産業としてだけでなく、加工などの2次産業、さらにはサービスや販売などの3次産業まで含め、1次から3次まで一体化した産業として農業の可能性を広げようとするものである。

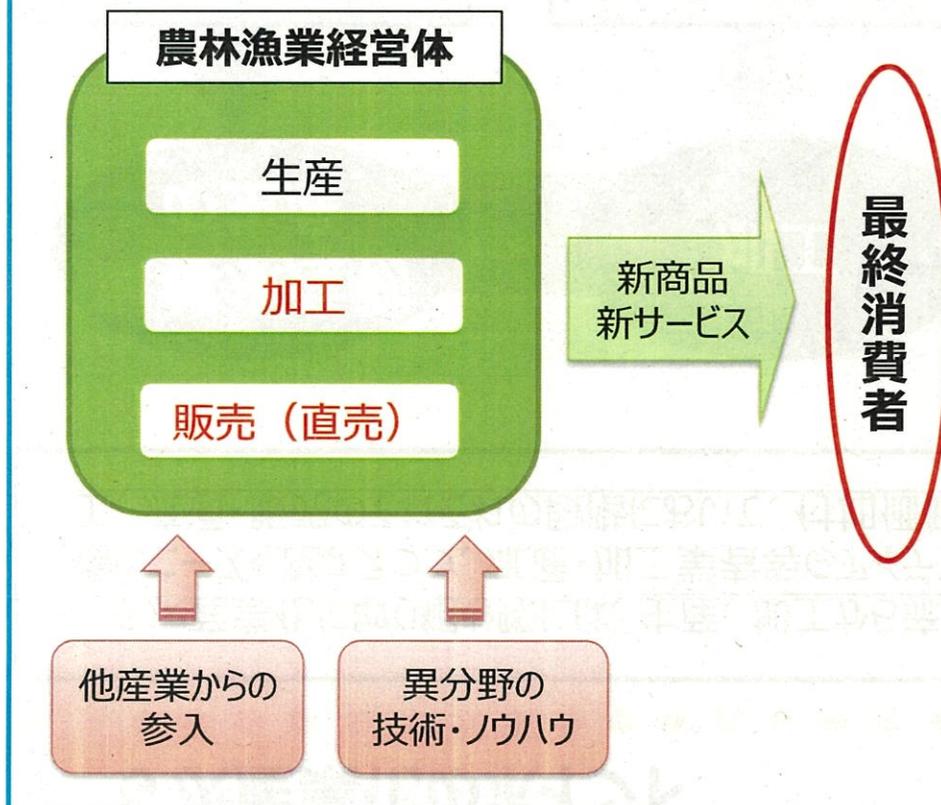
出典：「文部科学省検定済教科書（高等学校農業科用） 農業経営」（実教出版）  
※平成26年度から使用

**1×2×3=6で**  
**6次産業化**

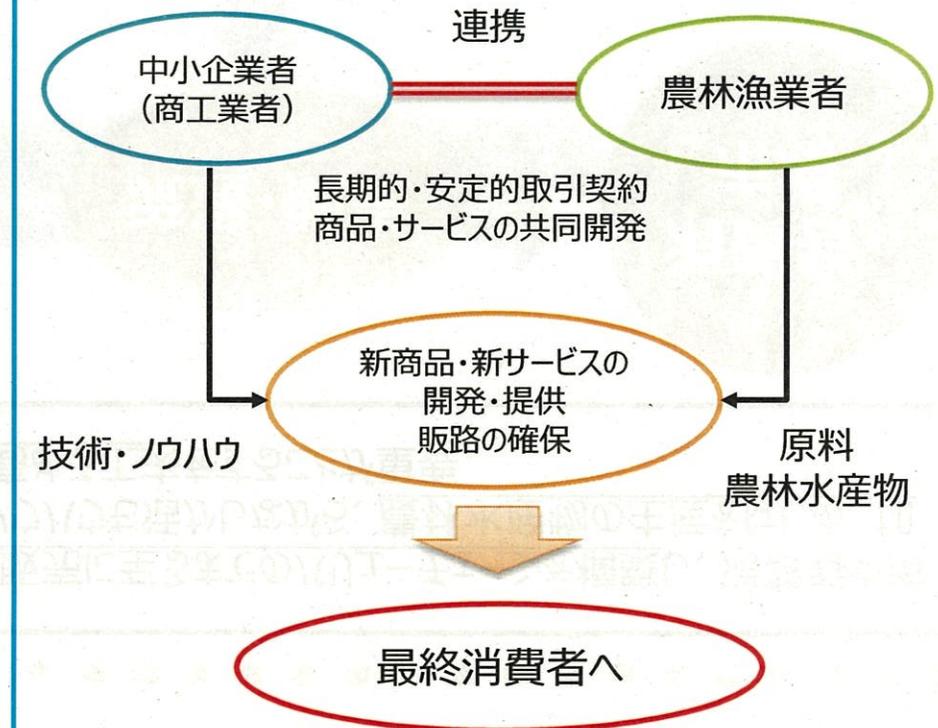
## 2 6次産業化と農商工連携

- 6次産業化は、農林水産物の付加価値向上を目指した、農林漁業者による生産と加工・販売の一体化等に向けた取組。
- 農商工連携は、農林漁業者と中小企業者が新商品や新サービスの開発・販路拡大等のため連携する取組。

### 農林漁業の6次産業化のイメージ (1次・2次・3次部門の一体化)

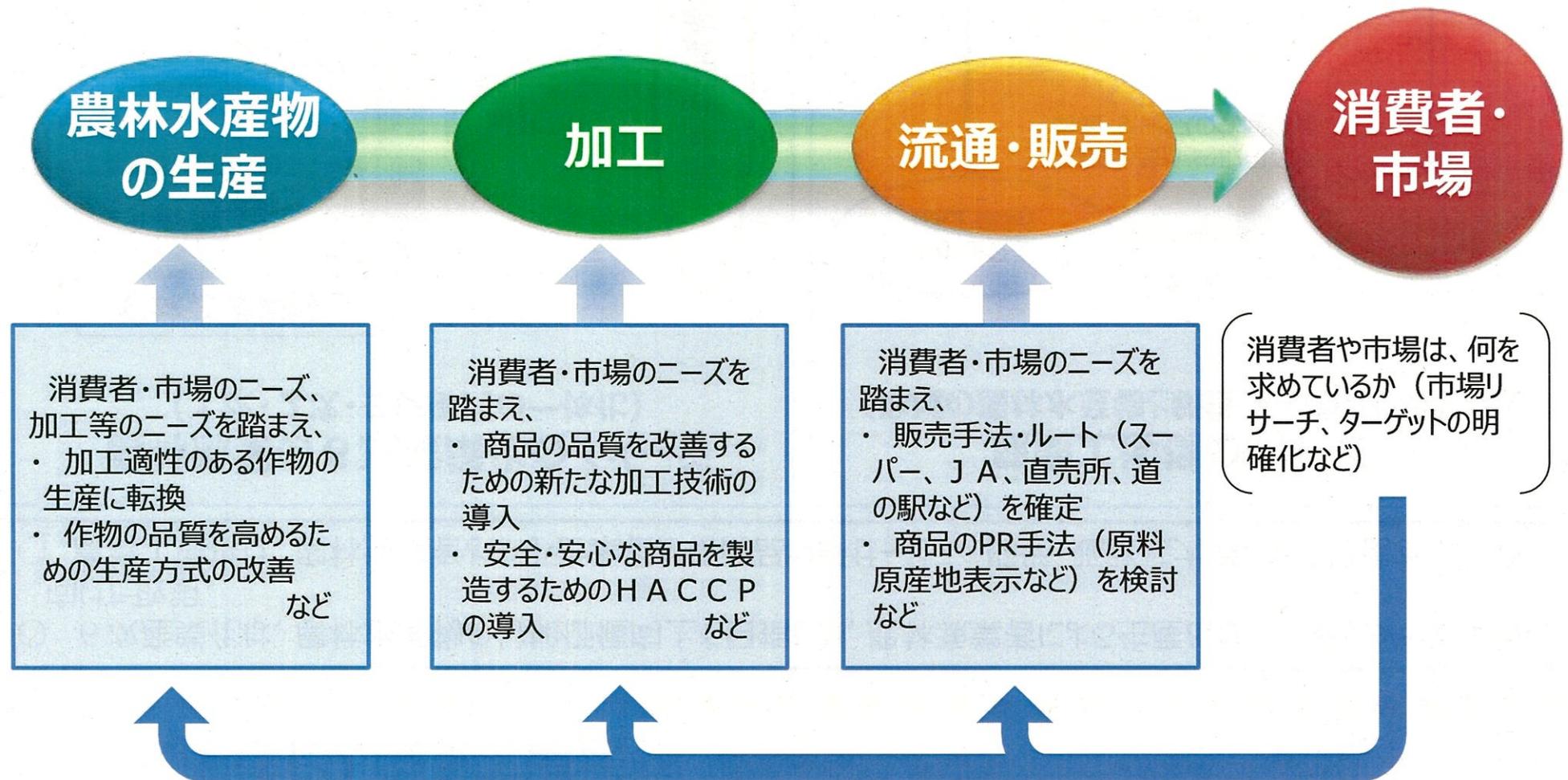


### 農商工連携のイメージ (地域の農林水産物と新技術・ノウハウの融合)



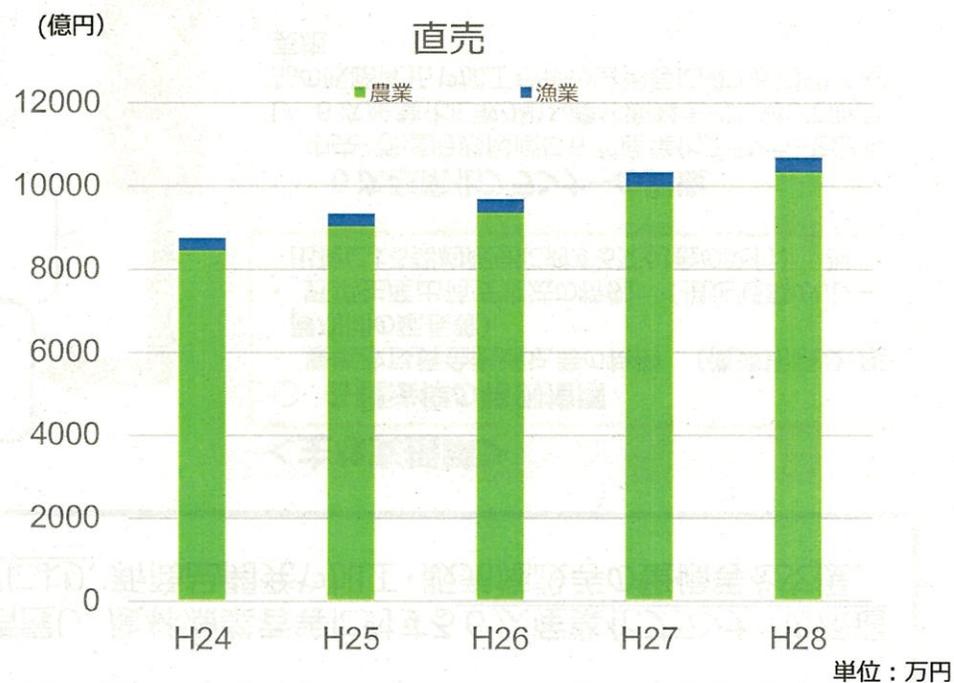
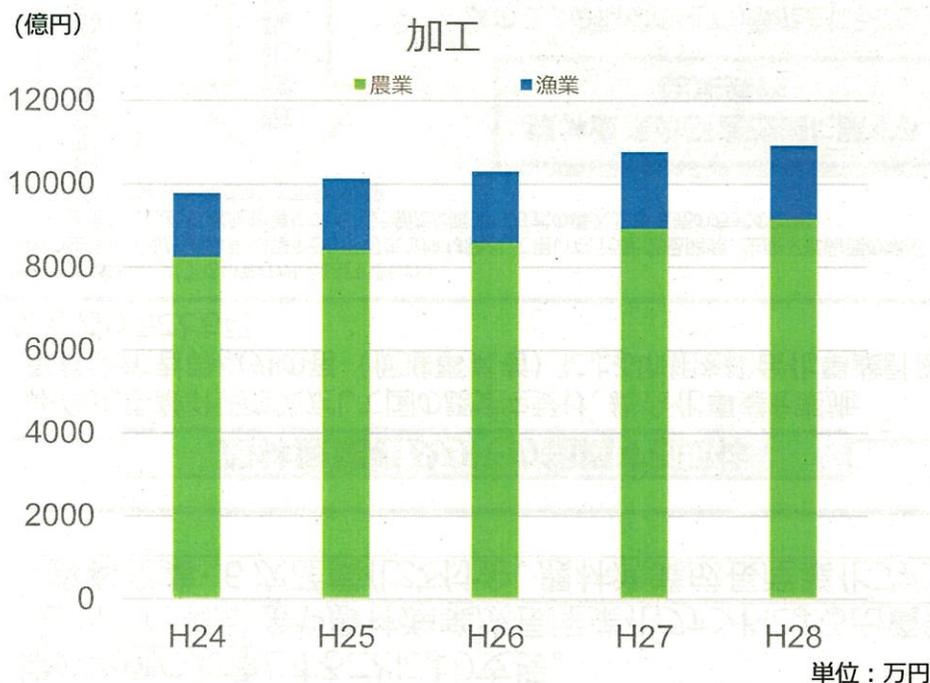
### 3 6次産業化のポイント

- 6次産業化に取り組む際には、生産、加工から流通・販売に至るまでのバリューチェーンを構築し、消費者や市場のニーズを踏まえつつ、流通・加工業者等のアイデア・ノウハウも活かしながら、農林水産物の生産をはじめ、加工、流通・販売のそれぞれの段階において、付加価値を高める工夫をすることが重要。



## 4 農林漁業者による加工・直売に関する市場規模の現状

- 6次産業化の市場規模（農林漁業者による加工・直売分野の年間売上額）は緩やかに拡大中。
- 6次産業化総合調査によれば平成28年度の加工・直売の売上げは約2.2兆円（農業関連約2.0兆円、漁業関連約0.2兆円）。



1事業者 当たり平均 売上高	H24	H25	H26	H27	H28
農業	2,711	2,726	3,217	3,306	3,307
漁業	9,920	11,515	11,546	12,096	11,591

1事業者 当たり平均 売上高	H24	H25	H26	H27	H28
農業	3,587	3,807	3,946	4,229	4,405
漁業	5,084	5,127	5,229	5,503	5,512

# 5 六次産業化・地産地消費の概要（6次産業化関係）

（法律の公布日：平成22年12月3日、施行日：平成23年3月1日）

- 地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等を促進するため、農林漁業者及びその組織する団体（これらの者が主たる構成員又は出資者となっている法人を含む。）が主体的に行う新事業の創出等の取組に対して支援を行う法律。
- 農林水産大臣は、農林漁業経営の改善を図るために農林漁業者等が行う総合化事業について、計画の認定を行い、各種法律の特例の対象とすることにより支援。
- このほか、補助金や農林漁業成長産業化ファンドによる出資等を措置し、農林漁業者等に対する6次産業化プランナーの派遣や食料産業・6次産業化交付金、農林漁業成長産業化ファンド等により、新商品開発や加工・販売施設等の整備等を支援。

## 農林漁業者及びその組織する団体

- ・ 総合化事業計画を策定して国の認定を受け、総合化事業を実施
- ・ 農林漁業者等以外の者（促進事業者）による取組を総合化事業計画に位置付けることも可

<総合化事業とは、以下のいずれかに該当するもの>

- ・ 自らの生産に係る農林水産物等をその不可欠な原材料として用いて行う新商品開発、生産又は需要の開拓
- ・ 自らの生産に係る農林水産物等について行う新たな販売の方式の導入又は販売の方式の改善
- ・ これらを行うために必要な生産の方式の改善

総合化事業計画の認定の申請

総合化事業計画の認定

## 農林漁業の経営改善に関する認定要件

次の2つの指標の全てが満たされること

- ア) 農林水産物等及び新商品の売上が5年間で5%以上増加すること
- イ) 農林漁業及び関連事業の所得が、事業開始時から終了時まで向上し、終了年度は黒字となること

## 農林水産大臣

- ・ 総合化事業計画を認定し、各種の支援を実施

## <主な支援策>

### ○ 各種法律の特例措置

- ・ 農業改良資金融通法等の特例（償還期限及び据置期間の延長等）
- ・ 野菜生産出荷安定法の特例（指定野菜のリレー出荷による契約販売に対する交付金の交付）等

### ○ 6次産業化プランナーの派遣

- ・ 中央・都道府県段階に6次産業化プランナーを配置し、6次産業化に取り組む農林漁業者等に対して新商品の販路開拓や加工技術の習得等に関するアドバイスを実施

### ○ 食料産業・6次産業化交付金のうち「加工・直売」

- ・ 新商品開発、販路開拓等に対する補助
- ・ 新たな加工・販売等へ取り組む場合に必要な施設整備に対する補助

### ○ 農林漁業成長産業化ファンド

- ・ 農林漁業者等が主体となって、流通・加工業者等と連携して取り組む6次産業化の事業活動に対し、出資等を実施

支援

## 6 総合化事業計画の認定状況（平成30年12月28日現在）

○ 平成23年5月の第1回認定以降、総合化事業計画の認定件数は累増し、平成30年12月28日現在で約2,400件。（栃木県の認定件数は52件）

(1) 地域別の認定件数

地域	総合化事業計画	うち農畜産物関係	うち林産物関係	うち水産物関係
北海道	148	139	3	6
東北	363	327	12	24
関東	405	365	18	22
北陸	119	114	1	4
東海	220	191	14	15
近畿	378	344	12	22
中国四国	288	237	11	40
九州	422	352	28	42
沖縄	55	50	1	4
合計	2,398	2,119	100	179

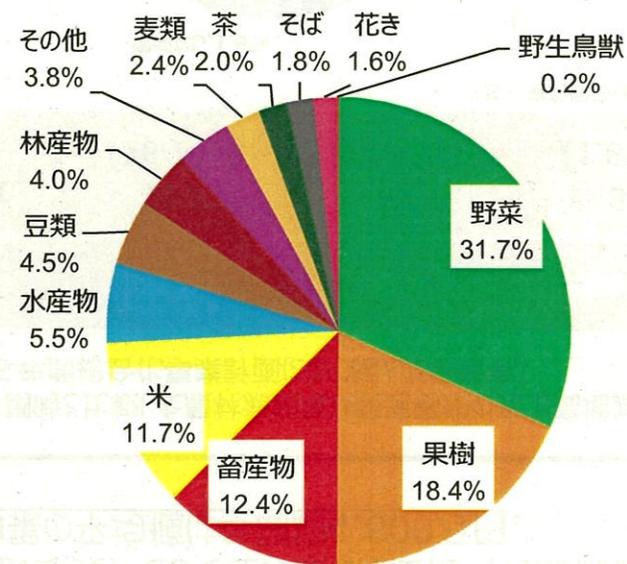
(2) 総合化事業計画の認定件数の多い都道府県（件数）

北海道	148
兵庫県	110
宮崎県	104
長野県	96
熊本県	84

(3) 総合化事業計画の事業内容の割合（%）

加工	19.3
直売	3.0
輸出	0.4
レストラン	0.3
加工・直売	68.2
加工・直売・レストラン	6.9
加工・直売・輸出	1.9

(4) 総合化事業計画の対象農林水産物の割合



※複数の農林水産物を対象としている総合化事業計画については全てをカウント。

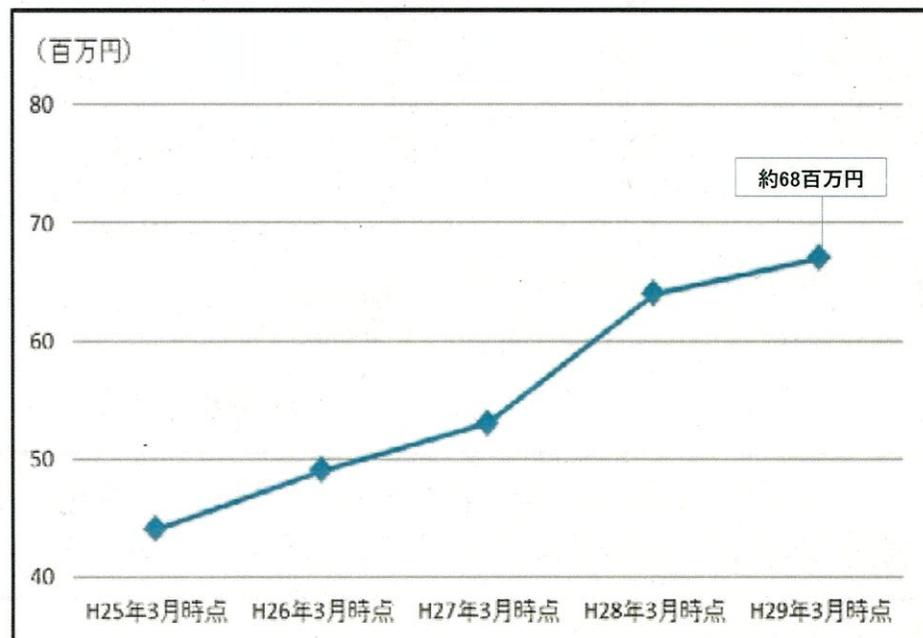
(参考) 年度ごとの認定件数（累計）の推移

平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
709	1,321	1,811	2,061	2,156	2,227	2,349

## 7 認定事業者に対するフォローアップ調査の概要（平成29年度）

- 認定事業者に対する平成29年度フォローアップ調査によると、認定事業者の売上は着実に伸びてきている。経営状況を見るのに最もふさわしいと思われる5年間総合化事業に取り組んできた者の売上高は、一経営体当たり約6,800万円。認定申請時に比べて8割近くの者の売上げが増加している。
- 認定事業者全体で見た一事業者当たりの平均雇用者数は約14人。※一農業経営体の平均雇用者数は約5人（2015農林業センサス）
- また、総合化事業の実施により経常利益、雇用（人件費）及び投資（減価償却費）として生み出した価値（付加価値額）を地域への波及効果として考えると、認定事業者全体で一事業者当たりの波及効果の平均値は年間約4,800万円。

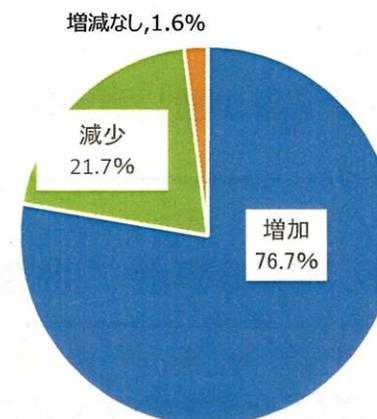
【1事業者当たりの新商品等総合化事業における平均売上高】  
（5年間総合化事業計画に取り組んだ事業者）



【認定申請時と比較した農林漁業及び関連事業の売上高増減】  
（5年間総合化事業計画に取り組んだ事業者）

	増加	減少	増減なし
事業者数 （割合）	237 (76.7%)	67 (21.7%)	5 (1.6%)

（注）有効回答数は309



8 県内の認定事例 1 【認定月日】 平成23年5月31日

【事業名】

(有)那須高原今牧場における自家産原乳及び山羊乳を利用した  
チーズ製造・販売事業

事業者名 有限会社 那須高原今牧場

代表者氏名 代表取締役 今 耕一

所在地 栃木県那須郡那須町大字高久甲5898

主な事業 酪農及び受精卵移植による和牛の生産・販売

電話番号 0287-74-2580(チーズ工房)

ホームページ <http://www.ima-farm.com/>



チーズ工房

【認定計画の概要と進捗状況】

- 牧場内にチーズ工房を整備し、自ら生産した牛及び山羊の生乳を活用したチーズの製造・販売を行い、「那須高原の牧場産チーズ」というブランド化を目指す。
- 平成24年4月から、フレッシュチーズ、セミハードチーズ、ウォッシュチーズ、山羊のチーズ(季節限定)等、順次、製造販売を開始。自社チーズ工房、インターネット、道の駅、ホテル、観光施設等で販売中。

【今後の予定】

- レストラン等への食材提供に加え、ギフト・お土産品等として首都圏の百貨店を中心に販路の拡大を行い、リピーターの確保を目指す。
- 牛乳によるハードタイプのチーズを試作中であり、今後の販売を目指す。
- 国内ではあまり知られていない、フレッシュタイプのチーズの普及を目指す。



茶臼岳(山羊の熟成チーズ)  
季節限定商品(5月~11月)

【実施体制】

- 責任者  
高橋 雄幸
- 製造・販売者  
高橋 雄幸  
高橋 ゆかり

2

【認定月日】 平成24年2月29日

【事業名】

加藤農園の手作りフルーツジャム製造・販売

事業者名 株式会社 加藤農園

代表者氏名 代表取締役 加藤 博樹

所在地 栃木県矢板市長井1333

主な事業 りんごの生産・販売

電話番号 0287-43-1177

ホームページ <http://www.k-apple.com>

(加藤農園)



【認定計画の概要と進捗状況】

- 自ら生産したりんご、キウイフルーツ等の果物を原材料とした「ジャム(りんご・キウイ・ブルーベリー・梅)」、「りんごコンポート」の製造・販売を行う。
- 「ジャム」、「りんごコンポート」は、平成24年4月から加藤農園直売所、道の駅、農産物直売所、スーパー、百貨店、東京ソラマチとちまるショップ、インターネット等で販売中。また、新たに「林檎バター」「りんごのブラッセ」を開発し、販売を開始した。
- 29年1月に法人化を達成し、さらなる経営の発展を目指す。

【今後の予定】

- りんご、りんごジュース(既存品)とともに、ジャム、コンポート(新商品)を販売し、売上を伸ばし経営の充実を図る。
- 県外の商談会に積極的に参加し、首都圏のスーパー等への販路拡大を図る。



加藤農園 直売所

【実施体制】

- 責任者  
加藤農園  
代表 加藤 博樹
- 商品開発・製造者  
加藤 博樹

## 【事業名】

種豚の育種、改良を目指したハム・ソーセージ・精肉の製造・販売

事業者名 有限会社 星種豚場

代表者氏名 代表取締役 星 正美

所在地 栃木県那須郡那珂川町馬頭2444

主な事業 種豚・人工授精用精液の販売

電話番号 0287-92-2220

ホームページ <http://bato-ham.com>

## 【認定計画の概要と進捗状況】

- 自社で育種、改良を行った豚肉を使用して、ハム、ソーセージ等の加工品と精肉、惣菜の販売を行う。筋中脂肪(サシ)が入る系統を確立させ、生年月日、飼料等生産履歴を消費者に情報開示することで、一般精肉との差別化を進める。
- ハム・ソーセージ等の加工品は、道の駅、百貨店、都内の百貨店、レストラン、インターネット等で販売中。また、自社店舗内で精肉、ぎょうざ、ハンバーグを販売開始。

## 【今後の予定】

- 県内の農産物を使用した新たな加工品開発を行う。
- 種豚の育種・改良を目指すためのデータ収集を行い、開示に向け準備中。



## 【実施体制】

- 責任者  
㈱星種豚場
- 商品開発  
ばとう手づくりハム工房
- 販売促進  
㈱星種豚場  
ばとう手づくりハム工房

## 【事業名】

「完熟にっこり梨」を使った地サイダー・あめの新商品開発と製造・販売事業

事業者名 かね だ だし  
金田 正

所在地 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井1726-3

主な事業 果樹作農業

電話番号 028-677-1429

ホームページ <http://kanedafarm.jimbo.com/>

## 【認定計画の概要と進捗状況】

- 自家生産した「完熟にっこり梨」の特性を最大限活用した加工品を開発・販売し、栃木県の梨「にっこり」の知名度向上とブランドを確立することにより、経営の安定と発展を図る。
- 平成25年5月より、商品名「とちぎにっこり梨のさいだー」として自家農園直売所や道の駅、観光地、通信販売等で販売を開始した。「とちぎ農業ネットワーク企業組合」の協力を得ながら販路拡大中。

## 【今後の予定】

- 現在、試作段階にある「完熟にっこり梨の飴」の商品化。
- 加工場を新設し、新たな加工品を開発することにより、更なる農業の高付加価値化を目指し、売上げの増加を図る。



## 【実施体制】

- 責任者  
金田 正
- 商品開発  
金田 正  
金田美香

## 【事業名】

自家生産した安全、安心な和牛の直売事業

事業者名 株式会社ファーム横尾

代表者氏名 代表取締役 横尾 光広

所在地 栃木県鹿沼市久野832-1  
 主な事業 黒毛和牛の生産、水稻及び精肉直売  
 電話番号 0289-85-2338  
 ホームページ <http://www.ushiyanonikuya.com>



## 【認定計画の概要と進捗状況】

- 自家生産した黒毛和牛の精肉を新設する直営店舗で和牛のプロならではの部位ごとのおいしい食べ方を消費者等に提案しながら直接販売することにより、経営の安定を図るとともに、黒毛和牛の消費拡大を図る。
- 平成26年5月、直営店舗を開店し精肉の販売事業を開始した。黒毛和牛の高級精肉だけでなく、他の畜産物や地域の農産物を活用した惣菜等を販売することにより地域の活性化にも貢献。

## 【今後の予定】

- 安全安心をさらに明確にアピールするため、農場HACCPの取得を目指す。
- さらなる経営安定を図るため、繁殖からの完全一貫生産(100%)体制を構築する。



## 【実施体制】

- 責任者及び肥育生産 代表取締役 横尾光広
- 牛肉販売・加工部門 取締役 横尾 勉

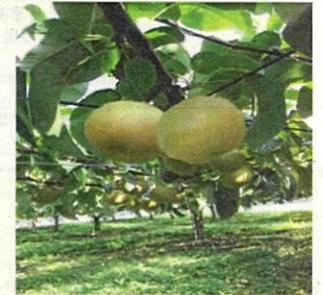
## 【事業名】

和なしと人参を使用した漬けたれ、ドレッシングの加工食品開発

事業者名 大野果樹農園

代表者氏名 大野 博康

所在地 栃木県那須烏山市大桶1798  
 主な事業 梨、人参、水稻の生産・加工・販売  
 電話番号 0287-84-1798



## 【認定計画の概要と進捗状況】

- 大野果樹農園のブランド力と収益改善のため、栽培している和なしの規格外品と人参を活用した肉を柔らかくする漬けたれ、特色あるドレッシングを開発、販売する。
- 平成27年1月から、たれ、ドレッシング製造販売を開始。スーパーマーケット、道の駅、直売所等で販売中。同じく平成27年から梨のコンポート、ジュース、カレーの商品を開発し、販売を開始。

## 【今後の予定】

- 和なしや野菜の取引先である飲食店、スーパーマーケットのニーズを受け、商品の工夫を加えていく。
- 洋なしの需要も見込まれることから、作付けの拡大と商品開発に取り組み、さらなる売上げの増加を目指す。
- イベント等に積極的に参加して、消費者の反応をつかみながら商品開発に取り組む。



にんじンドレッシング

なし屋さんのたれ



## 【実施体制】

- 責任者 大野博康
- 商品開発 大野博康、大野由佳、大野光子
- 販売促進 大野博康、大野由佳

## 【事業名】

野口いちご園の「とちおとめ」を用いた「いちごミルクのもと」の  
開発・販売事業

事業者名 野口いちご園

代表者氏名 のぐち かずき  
野口 一樹

所在地 栃木県真岡市境995-1  
主な事業 野菜作農業(いちご)  
電話番号 0285-74-1082



## 【認定計画の概要と進捗状況】

- 自家生産した新鮮な「とちおとめ」をふんだんに使用したいちごの濃縮液「いちごミルクのもと」を開発・販売することにより、通年での安定的な売上を確保し、所得の向上と付加価値の高い農業経営を目指す。
- 収穫期に朝取りしたいちごを冷凍保存し、外部の清涼飲料水加工場の施設で加工する。平成26年12月より道の駅「にのみや」において販売を開始、現在5箇所の農産物直売所及び外食店などの業務用等として販路を拡大している。

## 【今後の予定】

- 商談会等に積極的に参加し、バイヤーや消費者の意見・動向を踏まえ、容器や量目等の更なるブラッシュアップを図り、販路拡大に努める。
- 新たな販売方法としてインターネットを利用した通信販売の導入。
- 他業種の事業者とタイアップした新商品の開発・販売。
- 新たに贈答用として化粧箱入り商品の開発・販売。



## 【実施体制】

- 全体責任者  
代表 野口一樹
- 加工・販売促進責任者  
野口一樹

## 【事業名】

自家産もち米を用いた「杵つき餅」の製造及び販売事業

事業者名 株式会社 和氣ふあーむ

代表者氏名 わき かつえい  
代表取締役 和氣 勝英

所在地 栃木県塩谷郡塩谷町泉342  
主な事業 水稲、小麦、大豆の生産・加工・販売  
電話番号 0287-45-2111  
ホームページ <http://www.wakifarm.co.jp/>



## 【認定計画の概要と進捗状況】

- 自社生産の水稲もち米を活用した「杵つき餅」(白餅、玄米餅(玄米使用)、豆餅(自社産落花生使用))の製造、販売により付加価値生産に取り組み経営の多角化を行う。
- 平成27年に、アグリフードビジネス支援事業(県単事業)を活用し、もち製造に係る機械等を整備。平成27年12月より自社事務所における直売、県内の生協等の店舗で販売を開始。
- 平成28年に「いきい氣もち」で商標登録。

## 【今後の予定】

- 地元周辺の道の駅やJA直売所、県内のデパートへの販路を拡大するとともに、インターネットを利用した通信販売の導入を図る。
- 餅の長期賞味期限を可能とする製法に取り組む。



杵つき餅(白餅)



杵つき餅(玄米餅)



杵つき餅(豆餅)

## 【実施体制】

- 全体責任者  
代表取締役 和氣勝英
- 商品開発責任者  
佐藤洋右
- 加工場  
佐藤洋右、和氣直哉、磯 健太郎
- マーケット調査  
代表取締役 和氣勝英、佐藤洋右
- 販売促進  
佐藤洋右、和氣直哉
- 販売協力  
和氣直哉

## 【事業名】

自社産さつまいもを用いた「焼き干しいも」と「冷やしやきいも」の開発・販売事業

事業者名 株式会社 和みの社

代表者氏名 代表取締役 <sup>たかの かずひさ</sup> 高野 和久

所在地 栃木県さくら市早乙女2726-1

主な事業 さつまいもの生産・加工・販売

電話番号 028-686-1831

ホームページ <http://www.nagomino-mori.com>



## 【認定計画の概要と進捗状況】

- 自社生産したさつまいもを活用し、「焼き干しいも」、「冷やし焼きいも」を製造販売し生産・加工・販売の一貫体制を築き、販売ルートの拡大を図り、付加価値の高い農業経営と所得の向上を図る。
- 平成29年10月、さつまいもの定温貯蔵倉庫及びキュアリング加工施設を新設したことにより年間を通じた加工・販売が実現。

## 【今後の予定】

- さつまいも生産の規模拡大を図る(現状3haから5haへ拡大)。
- 生産している野菜類の品目を増加させ、セット野菜として販売を展開する。

## 【実施体制】

- 責任者  
代表取締役 高野和久
- 生産  
代表取締役 高野和久  
取締役統括部長 益子暁彦、郷間英男
- 商品開発  
代表取締役 高野和久
- 加工場  
代表取締役 高野和久  
取締役統括部長 益子暁彦
- 販売促進部  
取締役統括部長 益子暁彦、郷間英男



焼き干しいも

## 【事業名】

自家生産はちみつと地元農家のフルーツを用いた「さとの果実(果物のはちみつ漬け)」の開発・販売事業

事業者名 島田養蜂園

代表者氏名 <sup>しまだ せいいち</sup> 島田 誠一

所在地 栃木県下都賀郡壬生町表町11-13

主な事業 養蜂、はちみつの加工・販売

電話番号 0282-82-8389



## 【認定計画の概要と進捗状況】

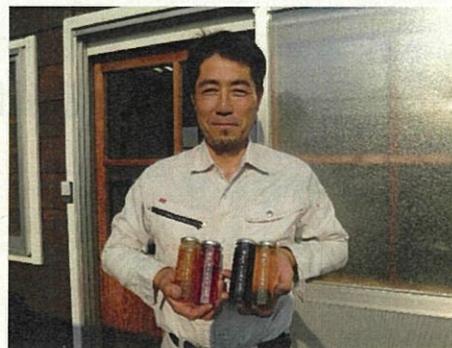
- 自ら生産した「はちみつ」を原料に地元農家で生産される「いちご、ゆず、梅、ブルーベリー」など季節の果物を用いた「さとの果実(果物のはちみつ漬け)」を開発し、「自園直売所」等で販売し、既存顧客の満足度向上や地産地消を目指す。
- 平成28年1月より自社直売所において直売を開始。また、同年3月より地元百貨店の通信販売サイトで販売開始。
- 平成29年より、壬生町のふるさと応援寄付金の贈呈品として取扱いを開始。

## 【今後の予定】

- 県内外の食品展示会や商談会等に積極的に参加し、販路拡大に取り組む。
- 近隣の観光農園の協力を得て、はちみつ商品の更なる販売促進を図る。

## 【実施体制】

- 全体責任者  
代表 島田誠一
- 商品開発責任者  
代表 島田誠一
- 加工場  
島田弘子
- マーケット調査  
代表 島田誠一
- 販売促進  
代表 島田誠一、島田弘子
- 販売協力  
道の駅しもつけ  
那須千本松牧場



ディスカバー農山漁村（むら）の宝（第5回選定）

# 株式会社 もてぎプラザ

10

グランプリ

地元食材の提供・活用

雇用

6次産業化

— 6次産業を通じた雇用機会の拡大 —

もてぎまち  
栃木県 茂木町



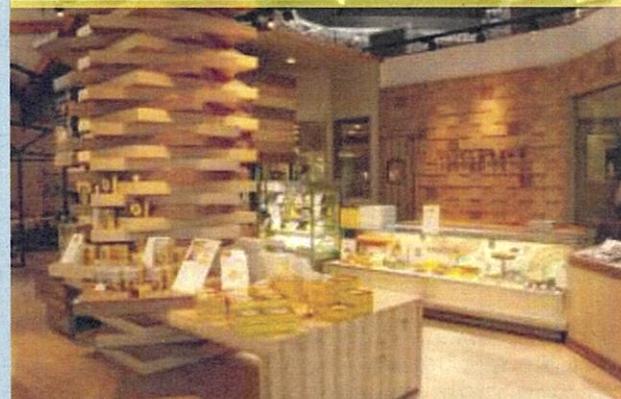
選定証授与式/交流会



手づくり工房で製造している 商品の一部



「バウム工房ゆずの木」の内観



## 概要

- ゆずの加工品や、町内産米粉と地元産たまごを使用したバウムクーヘンを開発し、地産地消に貢献。
- 加工品等の売上の増加に伴い、「バウムクーヘン第2工場」をオープンするなど、地域の雇用機会の拡大に貢献。
- 平成28年に農事組合法人を立ち上げ、高齢化による将来的な農産物の供給不足に対応。

## 成果

- 地域の雇用にも貢献し、雇用者数が、4名から34名に増加。（H25～H29）
- 「手づくり工房」及び「バウム工房ゆずの木」の売上が約3,300万円から約1.8億円に増加。（H25～H29）
- 平成28年には「ゆず」だけでなく「いちご・ブルーベリー・えごま・りんご・梅・米」の買取にまで拡大し、農家の所得向上に貢献。